

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第40回日本古武道演武大会

2月5日・日本武道館大道場



陽流砲術

脈々たる伝統の奥義を披露

第40回日本古武道演武大会



竹生島流棒術

第40回日本古武道演武大会（主催
日本武道館・日本古武道協会）は
2月5日に日本武道館で約3600
名の観衆・関係者が集まり、盛大に
開催された。

大会では古武道の35流派、238名の
演武者が、全国各地に伝わる古武道
の技を余すところなく披露した。

午前10時30分、三藤芳生日本武道
館理事・事務局長・日本古武道協会
常任理事が開会宣言を行い、開会式
が挙行された。国歌斉唱に続いて、
松永光日本武道館会長・日本古武道
協会会長が主催者挨拶を述べた。

「武道は日本の文化の中で、最も心
身の鍛錬となり、人間形成につなが
る伝統文化であります。演武者の皆
様には、日頃の稽古の成果を遺憾な
く発揮し、武道の源流でありその精
神が留められている古武道の素晴ら
しい演武をご披露いただきたく思
います。ご観覧の皆様は古武道35流派
の技と心をご堪能ください」

次に、白井日出男日本武道館理事
長・日本古武道協会理事長が挨拶。

「日本武道館では、現代武道9種目
と併せて、古武道の保存・継承に尽



山谷えり子参議院議員



白井日出男日本武道館理事長



松永光日本武道館会長



開会式



演武者に拍手をおくる大勢の観覧者たち



開場を待つ観覧者

力しております。現在、日本には失われつつあるものが3つあります。一つは日本人としての「誇り」、もう一つは「他者への思いやり」、最後は「活力」であります。これらは武道とその源流である古武道の真髄に通じております。本日は全国に伝わる古武道35流派の奥義を心ゆくまで観ていただきたいと思えます」

続いて、山谷えり子参議院議員が来賓祝辞を述べた。

「私は武道議員連盟理事を務めており、また私自身、学生時代に始めた合気道を現在も続けております。武道は、中学校教育で必修となりました。そして海外からも多くの注目が集まっております。その源流の古武道には一千数百年の脈々たる歴史があり、ハンマー投げの室伏広治選手もトレーニングに古武道を取り入れているそうです。本日は、現代だからこそ必要となる、美しく凛とした古武道の力を感じていただけることと思えます」

開会式に次いで、古武道功労者表彰式が行われた。栄えある平成28年度古武道功労者となった飯篠快貞（天真正伝香取神道流剣術第二十代



左から小澤智氏、松永光会長、飯篠快貞氏



古武道功労者表彰式



小笠原流弓馬術



関口新心流柔術



北辰一刀流剣術

宗家)と小澤智(北辰一刀流剣術代表)の両氏には、表彰状と功労章が授与された(古武道功労者の受章喜びの声は160〜161頁に掲載)。

午前11時より各流派による演武が開始された。

演武始めは、現代礼法の源流でもある小笠原流弓馬術。礼法の真髄である、実用・省略・美を感じさせる作法に則し、百々手の儀式を披露。小笠原清基宗家嫡男を先頭に7名の演武者が立て続けに矢を射放った。

竹生島流棒術では、松浦寛澄宗家らが、刃と打ち合うことなく太刀を制する棒術の形を披露した。

大東流合気柔術の演武では、近藤勝之本部長が極意合気で瞬く間に数人の敵を制する合気術を披露し、場内からは大きな拍手が送られた。

また、初實剣理方一流甲冑抜刀術では、神崎勝代表などの演武者は甲冑の武者装束に身を包み、カラカラと特有の音を鳴らしながら登場し、抜刀術を行った。巻き藁は一瞬で真二つとなり、館内からは大きな歓声が沸き上った。

その後も、柔術、剣術、居合術、



澁川一流柔術



當田流剣術



示現流兵法剣術



琉球古武術



起倒流柔術



肥後古流長刀



関口流抜刀術



伯耆流居合術

槍術、棒術、鎖鎌術などの流派が演武を披露、真髄に迫るその妙技に、観衆は詠嘆し、大きな拍手を送った。

演武納めは陽流砲術。砲術の的の方角となる観衆は、安全に万全を期すため、事前に左右の観覧席へと誘導された。そして尾上城由江家元ら2名の演武者は火薬を充填、着火し、左手に巻いた晒さらしで砲筒を支え、陽流の型の射技をとる。耳を押さえながらも観衆の視線は、抱かかえ大筒の砲口に注がれた。発射と同時に大きな火炎が南西上方へと伸び、場内には重厚な発射音が轟き、砲煙が立ち籠めた。

閉会宣言は山田重夫日本古武道協会理事・事務局長が行い、5時間半にわたる大会は盛会裏に終了した。

※起倒流柔術の演武中に、井上彰二代表が転倒されましたが、現在は元気に回復されております。





楊心流雑刀術



本體楊心流柔術



心形刀流剣術



佐分利流槍術



兵法二天一流剣術



大東流合気柔術

出場流派・演武者（演武順）

① 小笠原流弓馬術（神奈川）

小笠原清忠、小笠原清基、砂口勝紀、須名和夫、関口公男、米澤一巨、町田

和海、佐藤雄亮、武宮誠、星野達郎

② 北辰一刀流剣術（茨城）

兼子勝善、桐原英夫

③ 関口新心流柔術（和歌山）

関口芳夫、山中聡、関口正太郎、大木貴裕、辻村洋介、植田達也

④ 示現流兵法剣術（鹿児島）

東郷重賢、有村博康、藤村亨、塚本善洋、徳永重臣、末吉雄三朗、アレキサンダー・

ブラッドショー、築地克秀、デュルソ・

アンリ

⑤ 肥後古流長刀（熊本）

平田真由美、湯口美佐江、西嶋和子、柴垣美恵

⑥ 伯耆流居合術（兵庫）

大窪敏明、吉岡勝子、桑波田秀祐、八島和雄、井上優一郎、奥村宗一郎、大

田光俊、河野清弘

⑦ 濫川一流柔術（広島）

森本邦生、内信之、林大介

⑧ 當田流剣術（青森）

竹内文隆、神亮太、齊藤混樹

⑨ 起倒流柔術（京都）

井上彰二、岡島順

⑩ 関口流抜刀術（熊本）

米原亀生、松岡秀樹、麻野和巳、中山洋一、林憲一、大西秀雄、上原征二、中島健志、富田祐生、平川拓洋、本山亮



初實剣理方一流甲冑拔刀術



天真正伝香取神道流剣術



無雙直傳英信流居合術



荒木流拳法



竹内流柔術腰廻小具足

- 山内隆明、永松理一
- ⑪琉球古武術（東京）
井上貴勝、大川昌春、岡林俊雄
- ⑫心形刀流剣術（三重）
小林強、加藤尚大、原謙一、振角卓哉、伊東大輔、伊藤加奈、佐脇慎也
- ⑬本體楊心流柔術（兵庫）
井上恭一、宗教、原賀洋、入江哲史、大賀唯至、井上大豪、赤澤康裕、ミッコ・サルリネン、ユホ・ピリネン、マッテイ・リントマキ、ヤンネ・クロネン、ユハ・レンメトウオイネン
- ⑭竹生島流棒術（長崎）
松浦寛澄、松浦利英、橋口秀雄、村上和紀、栗山晃、迎俊明、阿部洋子、ミヒヤエル・ラインハート、菅原卓、岩永雅彦、石川裕章
- ⑮楊心流薙刀術（広島）
小山宜子、内藤真由美、賀谷純、裏山元招、竹内梨菜、川原陽子、和泉実悠
- ⑯兵法三天一流剣術（福岡）
加治屋孝則、吉原晴次、磯部健一
- ⑰大東流合気柔術（東京）
近藤勝之、近藤昌之、天野鎮夫、吉澤隆明、横濱洋也、石井勇一、マーク・トルーデル、黒澤精保、鈴木もも、稲村美子、池嶋勝則
- ⑱初實剣理方一流甲冑拔刀術（岡山）
神崎勝、多賀俊郎、坂本圭、松尾斉
- ⑲天真正伝香取神道流剣術（千葉）
飯篠宏太、大竹信利、京増重利、荒野祥司、成毛弘、櫻井俊也



無比無敵流杖術



琉球王家秘伝本部御殿手



水鷗流居合剣法・正木流鎖鎌術



諸賞流和



溝口派一刀流剣術



根岸流手裏剣術



天然理心流剣術

⑳荒木流拳法(群馬)

菊池邦光、永田仁志、菊池京一、小暮文明、西川二郎、細野桂一、鈴木荒一、鈴木崇史

㉑無雙直傳英信流居合術(東京)

関口高明、藤井勝子、野口富久子、尾形明夫、清水延子、小島恵子、関口高一、関口心明、小引律子、中野園子、金景煥、フーゴ・ウールリッヒ、金泰完、牧田みのり、ダニエル・トラウナー、トマス・マラナ、尾上政人

㉒竹内流柔術腰廻小具足(岡山)

竹内藤十郎、竹内秀将、竹内勢至、濱崎一成

㉓佐分利流槍術(広島)

川瀬一道、前原一教、北村賢一

㉔琉球王家秘伝本部御殿手(大阪)

本部朝行、本部直樹、中宮誠、新崎文子、鈴木佳衛、當銘敏恭、加藤慎一、片山修、中川景文、トーマス・マーティネス、勝沼悠、鳥海真、森理、川田竜也、塩治栄一

㉕溝口派一刀流剣術(福島)

長沼悟詮、星充

㉖無比無敵流杖術(茨城)

根本憲一、唯之、谷啓二、大和久正幸、村木浩治、沢幡伸男

㉗水鷗流居合剣法・正木流鎖鎌術(静岡)

勝瀬善光、勝瀬文孝、堀秀夫、山本亮、笠原孝彰、内野寛俊、吉川正記、カンデー・アントニー、今枝大輔、後藤清隆、池田育生、青木秀澄、深澤博之、内田康正、久永覺、井上友博、高田純



陽流砲術



田宮流居合術



柳生心眼流甲冑兵法



天神真楊流柔術



大会初のタブレット端末によるアンケート調査



大会全景



鞍馬流剣術



心技体人を育てる総合誌
月刊 武道

- ②8 諸賞流和 (右手)
高橋厚吉、熊谷弘志、佐藤智之、山本忠博、主濱泰晴、宮原博光
- ②9 天然理心流剣術 (東京)
平井正人、山口和恵、時田由記、常田貞行、小林恵子、野崎絹子、千葉勝由、松本賢司、平本輝彦、当金香織、中村明人、須田英宏
- ③0 根岸流手裏剣術 (茨城)
早坂義文、池永泰雄、黒澤慧大、河津出人、東アミール
- ③1 鞍馬流剣術 (東京)
柴田章雄、東山誠
- ③2 天神真楊流柔術 (埼玉)
柴田孝一、柴田俊充、松浦富士雄、水野真
- ③3 田宮流居合術 (神奈川)
妻木達夫、小野信義、山田千代和、清水新也、石川定、吉池映治、山口隆一、関口愛、森遥紀
- ③4 柳生心眼流甲冑兵法 (右手)
星國雄、鈴木亮一、古沢伸一、佐藤大春
- ③5 陽流砲術 (福岡)
尾上城由江、小金丸英俊

好評発売中

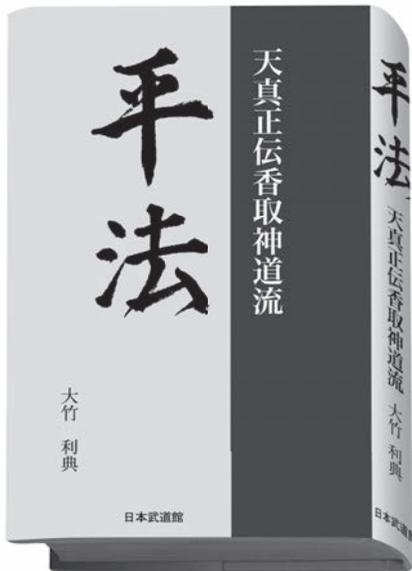
平法

天真正伝香取神道流 師範

大竹利典 著

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

序章	香取神宮御由緒
第一章	歴史篇
第一節	経津主大神の真伝、「天真正伝香取神道流」
第二章	修行篇
第一節	入門
第二節	林先生に師事
第三節	香取神道流最初の異国の門弟
第四節	流祖生誕六百年記念祭
第三章	技術篇
第一節	剣術
第二節	居合術
第三節	棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
第四節	柔術
第五節	忍術
第四章	軍学兵法篇
第一節	遁甲術
第二節	刀剣と密教
第五章	思想篇—全ての修行者へ—
第一節	修行者の心得
第二節	兵法は平法なり
—	平和を願う偉大なる教え



編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究家

横瀬

知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介!

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

第16回全日本短剣道大会

■団体现年の部

第18普通A (北海道)

■個人成年A

矢内健志朗 (1普通)

ともに初優勝



団体・成年決勝大将戦=18普通A 櫻井 (左) の胴が決まる

全日本銃剣道連盟創立60周年記念第16回全日本短剣道大会が2月12日、日本武道館で開催された。試合は3分三本勝負で行われ、時間内に決着がつかない場合は、判定で勝敗を決した。大会には全国から127チーム、388名が参加して、短剣道日本一を競った。今年は海外から台湾チームが初参加し、注目を集めた。

■団体戦 (3人制)

◇成年の部

決勝は、昨年優勝チームの50普通A (高知県) を準決勝で破った18普通A (北海道) と15普通B (香川) の対戦。先鋒戦、序盤に18普通Aの関澤良太が胴で先制。終了間際に打合いを制し、胴を決めて二本勝ち。続く18普通A中堅・山口徹は、攻防を制して胴を決め、試合中盤、攻め込んでさらに胴を奪う。ここで早くも18普通Aの優勝が決定。大将・櫻井公人も果敢に攻め続けて残り30秒、思い切って放った胴が決まって一本。さらに胴を決めて勝利し、18普通Aが3-0で堂々の初優勝を果たした。

◎優勝18普通A・大榎達宏監督

「自分たちの持ち味が出た試合でした。練習は山口選手がメニユールを組んで、一生懸命に若手を伸ばして、チーム一丸となってやりました。個人戦では関澤選手が不調でしたが、段々スキルが上がっていった、いい結果が出て本当に良かったです。今後とも勝ち続けていきたいです」

◇女子の部

決勝では神奈川県選抜と北海道旭川が対戦。神奈川県選抜は、先鋒・山口あや子が電光石火の胴を決めて二本勝ちすると、中堅・佐藤志穂も開始早々に胴で二本勝ち。この時点で神奈川県選抜の優勝が確定。大将戦は神奈川県・鈴木弥生が勢いそのまま胴二本を決めて勝利。神奈川県選抜は3-0で、危なげない試合展開を見せて見事な初優勝を飾った。

◎優勝11神奈川県選抜・安西直毅監督

「選手が一試合一試合どんどん成長していくことにすごく感動しました。特に若手の佐藤選手が、最後は見事に二本を決めました。この大舞台でも実力を出せたことは、一番の成果かなと思っています。短剣道

は、女子への普及が今後も課題だと思いますので、大会を通じて女子力のアップにつなげたいです」

◇高校生の部

決勝では文星芸術大学付属高(栃木)と昨年2位の柴田農林高(宮城)が対戦。文星芸大付属高の先鋒・古川クリスチアンが、柴田農林高・瀬川純の攻撃を躰しながら攻め、胴で二本勝ち。続く文星芸大付属高中堅・村上友勇は、柴田農林高・菊池正季の突きに合わせて胴を決める。必死に攻める菊池に対して、さらに冷静に胴を決めて勝利。大将戦は、

柴田農林高・松本大輝が二本勝ちで一矢報いるも、文星芸大付属高が2-1で初の頂点に立った。

◎優勝Ⅱ文星芸大付属高・鈴木利広監督
「絶対に勝つ、必ず優秀旗を持って帰るぞという気持ちでした。それが叶ってとても嬉しいです。柴田農林高はCリーグで負けた相手で、同じ相手には二度負けるなど選手を昂ぶらせました。彼らはまだ1・2年生なので、高校生活で3連覇できるよう、また、団体につながられるように頑張りたいと思います」
◎優勝Ⅲ文星芸大付属高・村上友勇選手
「先鋒から大将までしっかりと仕事



団体・女子決勝中堅戦=佐藤(右)が胴を決め優勝



団体・高校生決勝中堅戦=村上(右)対菊池



団体・成年優勝=18 普連 A (北海道)



団体・女子優勝=神奈川県選抜



団体・高校生優勝=文星芸術大学付属高等学校

■個人戦

◇成年Aの部(35歳以下)

決勝は矢内健志朗(1普連)と前回優勝の小川直希(50普連)の顔合せ。矢内は中盤に胴を決めると、さらに間合いを詰めてすかさず胴を決めて二本勝ち。初出場で栄冠を手に

しました。短剣道は間合いが近く、相手との駆け引きに集中しないと勝てません。気を抜いたらすぐ打たれます。しっかりと気を抜かずに毎日稽古をして、次も優勝を狙えるように頑張ります」

◇成年Bの部(36歳以上50歳以下)

決勝は、前回3位の國重道大(香川県選抜)と増田良明(兵庫県選抜)の対戦。國重が積極的な攻めを見せ、初優勝となった。

◎優勝Ⅱ1普連・矢内健志朗選手
「初出場で不安もあったのですが、チームの仲間がみんな励まして応援してくれたので、それが力になっていい結果となりました。相手が前回チャンピオンでしたが、思いつき行ったら上手くいきました。次は連覇を目指して頑張りたいです」

◇成年Cの部（51歳以上）

昨年優勝の田代勝（静岡県普教連）と藤村美樹（大阪府選抜）が決勝で対戦。田代が終了間際の立ち合いで素早く反応し、胴を決めて一本。そのまま時間となつて試合終了。田代は連覇を達成した。

◇女子の部

決勝は昨年と同じ顔合わせで、前回覇者の山口あや子（福島県選抜）と軽部久美子（郡山）の同郷対決。試合は開始早々に山口がノドを突いて先制。ともに手の内を知る仲で、試合は膠着するが、試合巧者の山口



個人・成年A決勝＝矢内（右）対小川

は打合いを制し、再びノドを狙つて一本。二本勝ちで連覇した山口は昨年が続いて4度目の優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ福島県選抜・山口あや子選手

「今回、練習があまりできていないという不安があったのですが、仲間顔を見て元気が出て、思い切つてできました。（決勝は）同郷の相手と、一緒に練習してきた人間ということで、すごく楽しんでできました。また来年連覇できるようにしっかり稽古して、A級審判を取つて日本武道館で審判ができるよう、邁進していきたいと思ひます」



個人・女子決勝＝山口（右）対軽部

◇高校生の部

決勝戦、初出場の中川蒼久（須賀川市銃剣道連盟）は、木梨智哉（神奈川県選抜）に胴で二本勝ち。嬉しい初優勝となった。

◎優勝Ⅱ須賀川市・中川蒼久選手

「去年は骨折して出場できず、初出場でした。緊張せずに自分のやりたように、伸び伸びとできたので良かったです。個人戦と団体戦と両方で入賞することができなくて悔しかった分、個人戦は嬉しかったです。来年は個人戦で連覇を狙つて、団体でも優勝したいです」



個人・高校生決勝＝中川（奥）対木梨

マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体 1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。
収録偉人一覧：嘉納治五郎（柔道）、高野佐三郎（剣道）、阿波研造（弓道）、双葉山（相撲）、船越義珍（空手道）、植芝盛平（合気道）、宗道臣（少林寺拳法）、園部秀雄と三田村千代（なぎなた）、鶴沢尚信（銃剣道）

マンガ・武道の偉人たち



ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp> インターネットでの注文は、「武道館単行本」と検索!



表彰式＝個人・成年A優勝・矢内健志朗選手



個人戦優勝者＝前列左から矢内、國重、田代、山口、中川

台湾選手インタビュー



▽大将・徐幸光選手
シユウシツクワン

「短剣道はとてもエキサイティングな武道だと思いました。普段、私は剣道を稽古しているのですが、短剣道はとてもスピーディーです。日本の選手の速さにビックリしました。剣道は考える時間があり、時には考えすぎてしまうこともありますが、短剣道には考える時間がほとんどありません。とにかく体を早く動かさないといけない、体を自然に前に出していないといけないので、そこに違いを感じます。

私は、週に2回剣道と銃剣道の稽古を行い、週に1回弓道となぎなたの稽古を行っています。

台湾ではいろいろな日本武道が流行っています。一つの武道をや

る人がほとんどですが、今はどんなインターネットが普及して、いろいろな情報を得られるようになったので、様々な武道にチャレンジする人が増えています」

▽特別演武者・謝宛儒選手
シエワンジュウ

「台湾短剣道連盟会長の謝と申します。日本武道館の名前は聞いたことがありましたが、今回はじめて来ることができました。ここで全日本短剣道大会に出場できたことは、とても嬉しかったです。素晴らしい経験ができました」



特別演武＝打・洪慧美、仕・謝宛儒（ともに台湾）

【大会結果】

■団体戦

◇成年Ⅱ①18普連A②15普連B③50普連A、44普連

◇女子Ⅱ①神奈川県選抜②北海道旭川③福岡桜組、郡山

◇高校生Ⅱ①文星芸大付属高②柴田農林高③岩手紫波、横浜修悠館A

■個人戦

◇成年AⅡ①矢内健志朗（1普連）②小川直希（50普連）③高橋翔（特教隊）、小中守（18普連）

◇成年BⅡ①國重道大（香川）②増田良明（兵庫）③佐藤進（1施大）、児島義久（1普連）

◇成年CⅡ①田代勝（普教連A）②藤村美樹（大阪府選抜）③相野照昭（青森県選抜）、久恒弘宣（春日井クラブ）

◇女子Ⅱ①山口あや子（福島県選抜）②軽部久美子（郡山）③白鳥舞（宮城県選抜）、中嶋優起（福岡桜組）
◇高校生Ⅱ①中川誉久（須賀川市銃剣道連盟）②木梨智哉（神奈川県選抜）③村上友勇（文星芸大付属高）、野澤和将（文星芸大付属高）



好評発売中

絵と文 中村麻美 (なかむらまみ)

F4判・上製・98頁・定価(本体2700円+税)

伝えたい日本のこころ



中村麻美 (なかむらまみ) 画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室(田中峰雪氏に師事)にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説

挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に『天地人丸紋絵巻』(兼続お船ミュージアム所蔵)、『斎王』(三重県立高宮歴史博物館所蔵)など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

目次

- 一 かしこい小僧さん
- 二 ひよどり越え
- 三 天の石屋戸
- 四 巖流島の決闘
- 五 太田道灌と少女の歌
- 六 三本の矢の教え
- 七 山中鹿介―我に七難八苦を与えたまえ
- 八 良寛さまと笛
- 九 民を慈しむ仁徳天皇
- 十 中江藤樹―母への葉
- 十一 夫の危機を救う弟橘媛
- 十二 良子齋王―別れの御櫛
- 十三 桜井駅の別れ
- 十四 川中島の大蛇
- 十五 中島の戦い―謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光―笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫―夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎―米百俵の精神
- 二十二 島津義弘―関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后―千人のからたを洗う
- 二十四 城戸俊三―勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺『青葉の楓』
- 二十八 神武天皇と東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 野中兼山―海に捨てたはまぐり
- 三十二 鉢の木
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙覧『独楽吟』
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 吉田松陰の志
- 三十八 鳥居強右衛門の勇氣
- 三十九 明智光春―誉れの湖水渡り
- 四十 赤穂義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた榎原景時
- 四十二 真田幸村―大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇―祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火『白菊』

編集・発行 公益財団法人日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 まどどうぞ!

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。